

都道府県別賞一等

未来に備える生命保険

高知県 高知中学校 一学年

田伏 真輝人

日本人の年間死亡者数は二〇二一年で約百四十三万人にもものぼる。その中でも一番多い死因として挙げられているのはガンである。二〇二一年、ガンでの死亡者数は約三十八万人を超え、年々その数は右肩上がりに上昇している。

僕が小学校低学年の頃、大叔母が悪性リンパ腫というガンで亡くなった。大叔母はとも明るくにぎやかな人で、僕も小さい頃に大叔母に何度も遊んでもらった記憶がある。親戚はもちろん、沢山のの人に愛されていた人だった。

そんな大叔母がある日突然ガンになった。何の予兆もなく病気が発覚し、あっという間に症状は悪化しガンは進行していった。病気の治療には沢山のお金がかかる。入院費に検査費、薬代……それ以外に病院に通うための交通費に患者衣代。だがそれらの出費に備えられる程の時間の余裕はなかった。そんな時にお世話になったのが生命保険の一つである「ガン保険」だ。大叔母は祖母の勧めでガン保険に入っており、そのお陰でガンと診断された時や入院が決まった時に金銭面を心配することなく治療に専念することが出来たと聞く。ガン保険に助けられたのは大叔母だけではない。大叔母の姉である祖母もガン保険で金銭面の余裕が出来たことで心配ごとが減り、大叔母の看病に集中出来たのだと後から聞いた。大叔母のガンが発覚してから亡くなるまでの間、親戚や友人が絶えず側にいたらしく、祖母は

「最後まで大叔母にさみしい思いをさせることなく見送ることが出来た。きっと大叔母も幸せだったと思う。」

と話してくれた。もし生命保険がなかったらここまで大叔母の治療に尽くすことが出来ていなかっただろう。

この一件で僕の両親も生命保険についてしっかり見つけ直す機会が出来たそう。前までは祖母と生命保険について話している時、きまってはかからないだろうし、うちは大丈夫。」

と話していたそう。しかし大叔母が亡くなってからは

「いつ誰に何が起こるかも分からない。万が一何か起きてからでは遅いから、備えられる事は備えておかないと。」

と話す。今回作文を書くにあたって、生命保険について沢山の知識を得ることが出来た。生命保険と一言で言うがその中にも亡くなってしまった場合の死亡

## 第60回中学生作文コンクール

保険、病気やケガをした場合の医療保険、特定疾病保険、介護が必要になった時の介護保険と、まだまだ沢山の種類がある。その中で自分に合った生命保険や期間をしっかりと選んで入ることが大切だろう。今は沢山の生命保険があり、高くないものも多い。

もし今、生命保険に入ることを悩んでいる人がいるのであれば身をもって体験したからこそ「備えあれば憂いなし。何か起きてからでは遅いのだから。」と伝えたい。